

大阪 あそ歩

OSAKA
ASOBO

長堀川はなぜ消えてしまったの？ ～四ツ橋から南船場、長堀までを歩く～

船場と島之内の境目を流れた長堀川。大坂最古の堀川・東横堀川の末吉橋から西に分流して木津川の伯楽橋に注ぎ、その長さは約2.4キロ、幅は約50メートルでした。水都大坂の水運の要として機能しましたが、現在は埋め立てられ、長堀通になっています。かつての長堀川界隈の名所旧跡を訪ね、失われた長堀川の情景を偲びます。

① 長堀川（四ツ橋跡碑）

『浪華長堀心齋橋記』によると元和8年(1622)に伏見商人の三橋清兵衛、池田屋次郎兵衛、伊丹屋平右衛門、岡田心齋らによって開削され、「伏見川」と呼ばれた時期もあったようです。鰻谷の窪地を利用して川を掘られたと推測されています。西横堀川と交わる地点には4つの橋が架けられ、それが四ツ橋で、水都大坂の象徴として庶民に長く愛されました。

② 新町橋跡碑

西横堀川に架橋されていました。西に向かえば新町遊郭で、東に向かえば船場・心齋橋。また心齋橋を南に下れば芝居町の道頓堀に至りました。花街と芝居街とを結び、大阪市中でも最も賑わった橋で、事実、明治5年(1872)に鉄橋化されていますが、これは高麗橋(明治3年・1870に鉄橋化)に次いで2番目の早さでした。ちなみに3番目に鉄橋化されたのが心齋橋(明治6年・1873)です。

③ 小倉屋山本

創業嘉永元年(1848)の老舗昆布屋です。明治期に宮内省御用達・宮内庁御用達となり、昭和4年(1929)には天皇陛下天覧御買上の栄に浴しています。直木賞作家の山崎豊子は3代目山本利助の実妹にあたり、処女作「暖簾」は生家をモデルにしています。

④ 井戸の辻

かつて当地には浄土寺(現在は下寺町に移転。夕霧太夫の墓所でも有名)の古井戸があり、約6尺(約1.8メートル)の桶が据えられ、井戸の辻と呼ばれていました。この井戸は「足洗井」とも呼ばれ、新町の遊女が廓を出るさいは、この井戸で足を洗い、これが「足を洗う」＝「素人になる」の語源となったといわれています。しかし江戸時代半ば頃には使用されなくなり、桶で隠されていました。明治以後に桶を開けてみると、不思議なことに井戸は跡形もなくなっていました。

⑤ バッテラ発祥の地

明治24年(1891)、順慶町・井戸の辻に大阪鮓「すし常」が開業。片身を開いて船形にしたコノシロを銀シャリに乗せた押し寿司を考案すると、最良客が「バッテラ」(ポルトガル語で小型艇という意味)と呼んで大好評に。その後、コノシロが値上がりしたのでサバに切り替え、生臭さを消すために昆布を上に乗せて、現在のバッテラが形作られました。すし常は現在も中央卸売市場にて営業しています。

⑥ 順慶町夜見世

かつて、この辺りに戦国大名・筒井順慶の屋敷があったことから順慶町と呼ばれ、東は堺筋から西は新町橋に至る通りでした。新町と心齋橋筋、堺筋を繋ぎ、連日連夜の夜店は大坂名所として知られ、「黄昏の頃より往来の左右に店を出し、種種の品を飾り、おもひおもひの標の行灯を照らす事万灯の如く」(『浪華の賑ひ』)「両側尺地の透間もなくタぐれより店をつらね万燈をてらし万のくさぐさを飾りて商ふ」(『撰津名所図会大成』)と殷賑を極めました。

⑬ 長堀橋跡記念碑

長堀川に最初に架けられた橋で江戸幕府が管理する公儀橋でした。しかし昭和46年(1971)、モータリゼーションを偏重した都市計画によって川は埋め立てられてしまい、長堀橋もなくなりました。

⑫ 油掛地蔵尊

かつて当地に明善寺がありましたが昭和20年(1945)の空襲で焼失。しかし境内にあった油掛地蔵尊は線香立ては割れましたが奇跡的に無傷でした。江戸時代より有名で『撰陽群談』には「大坂の市中、安堂寺町の市店、軒の側にあり。弘法大師彫刻の石像也と傳。患瘡疾者此像に祈り油を以って石像に浸す、必即功あり、世俗油懸の地蔵と称す」とあります。また『撰津志』には地蔵尊は元和年間(1615～24)に土中より掘り出されたもので「日本書紀に見えたる安曇寺の石仏なり。背面に天平11年安曇寺の銘ありと云。今これをたづぬるに壊滅して見えず」とあり、実は8世紀の石仏と伝えています。なぜ油をかけるのか?は謎ですが、地蔵尊を信仰していた遊女が抱え主から折檻されて体に油を注がれたときに地蔵尊が身代わりとなって救ってくれたことが由縁という説や、萱野某という人物の子供の病気が重く、やけになって地蔵尊に油をかけて縄で縛りあげて「これでも治してくれないか!」と叫んだところ、たちまち平癒したので、それから縄で巻いて油をかけるようになった…という説などがあります。謎めいた地蔵尊ですが、霊験あらたかな地蔵尊として厚く信仰され、大切に祀られています。

⑪ 長堀の石浜

長堀川は諸国物産の集散地として利用され、四ツ橋以西の長堀川沿岸は材木商が軒を並べて木材市として賑わいました。また心齋橋と佐野屋橋との間には石屋が立ち並び、撰津の御影石、播磨の立山石、泉州の和泉石、京都の白川石、紀伊の大崎石、近江の木戸石など、全国各地の名石が集積し、名工たちの手によって鳥居や橋、灯籠、手水鉢、道標、石仏、石白など様々な商品に姿を変えていきました。ただの石が彫刻されて姿を変えていく有様は、まるで魔法のような光景で浪花名所として非常に有名でした。その石浜を模したモニュメントがクリスタ長堀東端にあります。

⑧ 心齋橋

岡田心齋が架橋したといわれています。当時の心齋橋は長さ約35メートル、幅約4メートルの木橋でした。心齋橋界隈は、かつては書肆、書林が並ぶ出版業のまちで、井原西鶴『諸艶大鑑』や上田秋成『雨月物語』、大塩平八郎『洗心洞箭記』、頼山陽『日本外史』といった江戸時代のベストセラーの数々が心齋橋から発信されています。近松門左衛門も心齋橋の書林「風月堂」で亡くなったという説があります。

⑨ 鰻谷(俳人・上島鬼貫終焉の地)

上島鬼貫は万治4年(1661)に伊丹の酒造屋に生まれました。西鶴より19歳、芭蕉より17歳、近松より8歳年下です。西山宗因の談林派に入門しますが、25歳で医学を志して大坂へ。筑後三池藩や大和郡山藩、越前大野藩などに仕えました。芭蕉と親交を持って影響を受けますが、享保3年(1718)に『獨言』を刊行。その中で「誠の外に俳諧なし」と独自の俳諧論を極め、「東の芭蕉、西の鬼貫」と賞されました。元文3年(1738)、三休橋一町南の辻近くの「龜屋」で死去。享年78歳でした。「夢返せ 鳥の覺ます 霧の月」の辞世句が伝えられ、また鰻谷の因縁から四ツ橋に「後の月 入りて貌よし 星の空」の句碑が建立されています。鰻谷は『撰陽奇観』に「往古船場の地形は當代のごとく平地にあらず。所どころに谷のごとく高低ありしにや、今の道修町近世まで道修谷といふ名存せり。また島の内の鰻谷も舊き名にして谷間のごとき所にてありし」と記載されています。鰻を連想させる谷の地形があったことが地名の由来と推測されます。

⑩ 大阪市立近代美術館建設準備室

市民からの作品寄贈などで約4400点にも及ぶ日本有数の優れた近代美術コレクションを有しています。大阪画壇で活躍した北野恒富や、京都の上村松園、東京の池田蕉園とともに「三都三園」と称された堺出身の女流画家・島成園、手塚繁(漫画家・手塚治虫の父)と親交があった写真家の安井仲治、嶋本昭三も所属した「具体美術協会」創立者の前衛美術家・吉原治良など、大阪を舞台に活躍した作家の作品が数多く収録されています。とくに中津出身で若くして夭折した天才画家・佐伯祐三のコレクションは質量共に日本最大の規模を誇り、白眉です。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。

